

各会派による政務調査報告

逆転の発想、悪風を逆手に町おこし、庄内町、伊達なわたり活き生きプロジェクト、巨理町

視察地 宮城県巨理町

山形県庄内町

期日 11月8～10日

新政21、みらい研伊奈、

第一民主自由党

3党派合同

各地の行政は財政難の中、独自に知恵を出し特徴のあるまちづくりをしています。

巨理町では 訪れた人がホッとするやさしさのある町 若い人たちが戻って来る活力のある町 お年よりが安心する、やすらぎのある町。をめざして積極的に取り組んでいました。ここでは、交通弱者の社会進出を促進するため、年間8万人、3年間で25万人以上の利用者を数値目標として取り組んでいる町営バス事業を重点に学びま

した。

次の庄内町は平成17年7月1日に、余目町と立川町が合併し、誕生した人口2万4千人余の町で、風車をシンボルに、日本一住みやすく、住み続けたいまち、を目指しています。

教育と子育てで日本一にするため、合併時にハ-

ド、ソフトを条件の良い方を選択、幼稚園や各小中学校に町費で支援員や補助員の配置を実施している。

学童保育では、ボランティア団体が昔の庄屋さんのお宅を借りて運営する「ふれあいホーム^{はらいた}」で二つの学校の児童が放課後を過ごしていた姿は、印象的でした。両町の実践は今後の私たちのまちづくりに多いに参考になるものでした。



庄内町「ふれあいホーム^{はらいた}弘田」にて

町議会では、議員活動の資質向上をねらいとし、各会派で他の自治体の取り組み実態を視察調査しながら研鑽に努めています。



いわき市農業委員会玄関前にて

遊休農地の有効利用に関する農業委員会の試み

視察地 福島県いわき市

視察日 11月14日

伊新の会、公明党、民主党

3党派合同

農産物価格の低迷や担い手の高齢化等々、農業を取巻く状況は厳しいも

のがあります。そんな中、いわき市農業委員会は「行動する農業委員会」として全国でもユニークな事業を展開しています。三党派はその取組みの一つの遊休農地解消に

向けた実態調査について研修してきました。

農水省の「農林業センサス」では同市の耕作放棄地の面積は年々増加し平成17年で9・67km²と拡大になっております。ところがこの数値は農家へのアンケート集計であった実態を反映したものではありません。

そこで同農業委員会は遊休農地の有効利用を事業展開する上にも、まず何よりも正確な姿が欲しいということで18年に実態調査を始めることになりました。農振農地内の現状をその地区の農業委員と事務局員が調査に当たり、結果を新しい図面に落とししていく。各農業委員の大きな協力が調査の原動力になったとのこと。以上、一都市の農業委員会の新たな試みは当町にも参考になるものと考えます。